

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	重症心身障害児者施設	階数	地上3F
建設地	相模原市緑区長竹493-1他	構造	RC造
用途地域	指定無し	平均居住人員	93 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2013年4月15日
敷地面積	2,998 m ²	作成者	(株)LAU公共施設研究所
建築面積	1,431 m ²	確認日	2013年4月15日
延床面積	2,968 m ²	確認者	(株)LAU公共施設研究所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> コスト条件が厳しい中で施設の性格を考慮し、病棟部分の仕様を重視した。 傾斜地を利用し、各階共に外部へ水平避難出来るようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接住宅地側の開口部を少なくした。 雨水は敷地内浸透処理とした。
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> T2サッシュを採用した。 クッション性のある床材を採用した。 病室間、診察室間を遮音間仕切り壁とした。 	<h4>Q3 室外環境 (敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 空調室外機、厨房排気ファン、非常用発電機は屋上に設置した。 屋上の設備機器は目隠し壁で覆った。
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> 開口部が大きくなる病棟にはバルコニーを設け、日差しを遮ると共にペアガラスとして開口部からの熱損失を抑えた。 ベース照明となる廊下部分にLEDランプを採用した。 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 舗装面積を限定して地表面対策面積率を向上させた。 屋外照明は必要最低限とした。
<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 清掃性に配慮した仕上材を採用した。 耐用年数の長い配管を採用した。 将来の改修を考慮し、階高にゆとりをもたせた。 	
<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> 節水型の衛生機器を積極的に採用した。 グリーン購入法適合製品を採用した。 	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L:** Load (建築物の環境負荷), **LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), **BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される